

自己評価及び外部評価結果

令和元年度

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473701256	事業の開始年月日	平成17年3月1日
		指定年月日	平成17年3月1日
法人名	医療法人 徳寿会		
事業所名	グループホーム プラチナ・ヴィラ青葉台		
所在地	(〒227-0033) 横浜市青葉区鴨志田町758-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		エント数	2 エント
自己評価作成日	令和元年12月3日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>お客様が外出する機会を多く設ける様にし、地域・社会との繋がりを大切にしている。</p> <p>個人の思いを大切に、その人らしい生活が送れるよう支援している。</p> <p>また、職員は内外への研修に参加し、スキルアップに努めている。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和元年12月17日	評価機関 評価決定日	令和2年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、東急田園都市線青葉台駅からバスで約10分、最寄りの成合バス停から徒歩5分ほどの場所に位置している。周辺は道路を挟んで寺や畑が広がる自然豊かな閑静な環境の中にある。幹線道路に面してはいるが、建物が一步奥まっていることや、竹林に隣接していることで落ち着いた印象がある。</p> <p>【理念に沿ったケアの取り組み】 年1回、法人は、全グループの事業所を対象とした「改善事例取組み共有会」を開催している。一昨年からの取り組みで、法人の理念に掲げている包括的介護の視点から、各事業所が1年間のテーマを決め、業務改善やサービスの質の向上を目指している。当事業所は、「活気あるグループホームにする為に」をテーマに掲げ、利用者の社会性を維持するために、もっと利用者が地域に出かけ、地域住民と交流を持てるよう地域のケアプラザの事業やイベントを活用するなど地域の社会資源を利用し積極的に地域に出かけるようにした。また、残存能力を活かし、できることを發揮してもらえよう、利用者が家事をしたりする取り組みを行った事で、利用者の日々の暮らしが、今まで以上に生き生きとしたものになっている。これらの取り組みが評価され、「改善事例取組み共有会」にて最優秀賞に輝いた。</p> <p>今年度は、新しく入居した帰宅願望の強い利用者からヒントを得て、利用者「我が家」と思ってもらえるホームづくりをテーマに、職員はケアに取り組んでいる。</p> <p>【馴染みの関係を活かした社会性の維持】 入居前には、社会とのつながりの中で利用者一人ひとりが異なる環境の中で生活していたが、グループホームという同じ環境の中でも、利用者の個性や社会性を維持できるように努めている。</p> <p>入居前からの友人や知人との関係の維持だけではなく、入居後の馴染みの関係づくりも大切と考え、ホームに定期的に訪れる移動のパン屋や、理美容師、医療関係の医師や看護師など新しい馴染みができている。利用者が時々買い物に行く地域のコンビニやドラッグストア、カフェや自主事業の歌声喫茶、クリスマス会などの催し物がある地域ケアプラザなど馴染みの場所もできている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	プラチナ・ヴィラ青葉台
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念に添った年間目標を毎年立てている。より良い施設運営を職員同士で目指している。	法人統一の理念を掲げ、毎日の朝礼で読み上げて業務に就いている。管理者以下職員は、理念をケアや職員間の意識の象徴として理解している。毎年理念を基にテーマを掲げ日々のケアに取り組んでいる。ケアプランに近隣への買い物や地域ケアプラザのカフェや歌声喫茶へ参加することなどを取り込んでいる方もいる。前年度の「活気あるグループホーム」をテーマに掲げた取り組みも、成果を上げている。今年度は新規入居者の帰宅願望解消を目指し、「我が家」と感じられるホームづくりに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域へのイベント等に参加している。年間予定のもと実施、継続している。また新しい窓口も増えつつある。	地域の自治会主催の花見の会や、小学校の運動会、地域の美化清掃など利用者も多数参加して地域の方と交流している。隣の畑の方から柿や野菜の収穫物のお裾分けもあり、季節を味わう機会になっている。毎月、歌のボランティアを受け入れており、夏休みなどには小学生の子供とその友人を連れて来訪してくれることもある。毎週訪れる移動パン屋で、パンを選んで買い物をすることが利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への行事への参加や、近隣のお店を利用する事で、人々と接し理解を得よう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域住民による率直な評価を元に研修、改善への取り組みとして活かす働きかけを行っている。	運営推進会議は2か月ごとにエリア内にある同一法人のグループホームと共同で開催している。会議には両管理者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員が参加をして意見交換をしたり情報提供を受けている。地域包括支援センター職員から得た地域ケアプラザの催し物や自主事業の案内から、お茶のみサロンや歌声喫茶、クリスマスフェスタに利用者が4～5名ずつ順番に参加をしている。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>区や市の研修に参加、運営推進委員会で事業所の様子を伝え、助言を行っている。</p>	<p>生活保護を受給している利用者の入院時の費用や、日々の状況確認などで、区的生活支援課職員と連携を取り支援をしている。行政主催の感染症予防や、消防署主催の福祉施設を対象とした防災研修などに参加して区の担当者と顔を合わせる機会を作っている。</p>	
---	---	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束を行わないことを理解している。しかし事業所の前の道路は交通量が多く危険なため、利用者の状況に合わせ、必要に応じてユニットごとにドア施錠をしている。	2か月ごとの運営推進会議で参加者に資料を配布して「身体拘束等適正化検討委員会」を開催している。委員から利用者がどのような時に離設するのかについての質問が上がっている。事業所が幹線道路に面していることや構造上のために利用者の安全確保のためにフロアの施錠をしている。医師の管理の下、睡眠導入剤などを服用している方もいるが、日中の活動量を増やすなど睡眠の質の確保に努めている。職員は法人の「身体拘束をしないケアについて」研修を年2回受講している。	身体拘束適正化検討委員会や職員が集まる会議の場などで、日々のケアの中での気づきを基にした事例検討を行うなど、「身体拘束をしないケア」について、今以上の研鑽を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルは、常に閲覧できる所に掲げている。研修に参加し、情報の共有と意識改善する機会を作り、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修などを踏まえて権利擁護の学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用契約書、重要事項説明書の内容説明を行い、当事業所への希望を伺い、対応可能な内容の確認を行っている。管理者がご家族様に説明しご解の下、契約書を交わしている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱をご家族様の目の付きやすい所に設置。面会や行事など来訪時に本人の様子を伝えている。ケアプランは、本人やご家族様の意見を聞き、反映させている。</p>	<p>年1回、そば打ちなどの行事に合わせて家族会を開いている。家族から苦情や意見はほとんどないが、個別には利用者への要望などがある。利用者の様子は居室担当者が、家族に電話や面会時に詳細に話をしている。年1回、家族に向けた便り（ほんわか便り）を発行して利用者の1年の活動の様子などを伝えている。利用者からは、もう少し外に出たいなどの希望があり、外出の機会を増やしている。</p>	
----	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は面接やミーティングにて、職員の意見を聞く努力に努めている。内容は、定期的開催する定例会にて法人に伝えている。	全体会議は2~3か月ごとに、当日出勤の職員が参加して行っている。他には、カンファレンスは必要時、個人面談は年2回、職員の目標の達成状況などについて話し合っている。毎年のテーマに沿った具体的なケア方法などは、職員の意見を取り入れて決めている。職員間の都合に合わせた勤務の調整や、ケアについて互いに注意をしあえる関係づくりなどにより、風通しの良い職場環境ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標管理シートで、各自目標を設定し、評価している。面接を行い、目標の方向性や達成水準を確認し向上心を育成している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップの機会を得られるよう、内部、外部の研修への参加を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修や内外の研修に参加する事で、他グループホーム職員の交流を図り、会議などで共有しサービスの向上に努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時などに、ホームへの希望と共に、今までの生活歴や生活環境を伺い、今後ホームで安心して生活して頂けるよう、取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との電話、又は面接時の会話にて悩んでいる事を伺いホーム入居に関しての心配や不安を減らす努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人やご家族様に今後の希望を伺い、必要な支援が受けられる様、提携機関、協力機関と連絡を取っている。必要に応じ、今まで利用していた機関からの情報も得ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、おやつ作り、洗濯物畳み、居室掃除等、入居者様個々の状況に応じ見守りながら、出来る事は一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や体調、要望等を電話や面会時にこまめに伝えるようにし、本人の生活がより良いものになるよう、家族、職員で話し合う機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のほか、親戚、友人知人の来訪を歓迎し、楽しい時間を過ごせるよう支援している。又、電話や手紙、贈り物の取り次ぎも行っている。	入居前からの友人が訪問して居室で歓談する方や、友人が外部のお茶会に誘い、連れ立って外出する方もいる。入居してからの馴染みの関係を作ることも大切と考え、移動のパン屋や訪問美容師、訪問医療の関係者や近くのコンビニなどが馴染みになっている。職員は以前から生活習慣や趣味を継続するため、日々の中での掃除や洗濯、針をもって雑巾を縫うなどできることを支援している。また、外出する時には化粧をしたり、携帯電話で友人とやり取りをする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう時々席替えをしたり、職員が会話に入ったり全員で楽しめるレクリエーションを行ったりして、新しい関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に移られた後も、面会に行ったり、家族からの相談にも応じている。契約終了後も以前と変わらない様な支援が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、利用者の意向や希望を聞き、情報は申し送りや記録で共有している。またケアプランに反映している。把握が困難な時は表情や行動から汲み取る事を心掛けている。	職員はひとり一人の伝えたいことや思いを把握するために、できるだけ利用者に寄り添い、本音で話を聞く機会を持つようにしている。耳が遠くなった方の「補聴器が欲しい」との思いを家族に伝えた際に、無理に持たなくてもいいのでは、という家族の意向もあったが、利用者の思いを優先し、プランに取り入れ実現した。重度になり意志を出すことが困難になった方の思いをくみ取ること大切と考え、不快な表情などは決して見逃さないように職員は常に心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活歴や生活習慣を伺い、入居後もこれまでの生活が維持できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や体調、言動の変化などを記録に残し、申し送る事で全職員が現状を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族さまの意向や医師の所見も取り入れて介護計画を作成する。通常は三か月ごとに、急変時はその都度見直すために話し合いを設けている。	居室担当制を取り、担当者がアセスメントと介護計画の評価をしている。計画作成担当者と居室担当者、当日の出勤者がカンファレンスで話し合い、計画作成担当者が家族の希望や意向を聞き取り、介護計画にまとめている。職員のケアの統一を目指し、日々の業務記録とケアプランはカードックスにまとめ、職員は日々の記録をする際にプランを確認している。業務記録にプランと連動した番号で実施したケア内容の記載がある。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の生活の様子や体調等の現状を介護記録に記入。職員間で情報共有し日常介護に活かしている。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて医師、看護師、薬剤師、在宅医療マッサージ、他施設の相談員、福祉用具店などの協力を得て、その時に必要としているものを提供する努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の清掃活動へ参加し、又ボランティアや移動販売を受け入れ楽しい毎日を送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診を受けているが、家族の付き添いによる他受診も可能である。歯科は協力病院への受診か往診を、ご本人様・ご家族様の希望で選択している。	協力内科医が月2回往診に訪問している。家族同伴で従来からのかかりつけ医に受診する方もいる。かかりつけ薬局が居宅療養管理指導を取り、利用者の服薬全般を管理している。隣接する同法人の訪問看護ステーションの看護師が月2回健康管理に来ている。歯科医は入居時に無料検診をし、必要時に治療している。専門医への受診は、家族対応で行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師へ心身の状態や医師の指示、ご本人様、ご家族様の希望を報告し適切なアドバイスを受け、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーや受診、往診の記録で情報を伝え安心して生活できるように支援している。又面会、ムンテラ時に同席し退院後の受け入れ態勢を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応にかかる方針を定め同意書を得ている。又、協力医療機関よりの医師、看護師、ご家族様と話し合いを重ね、今後の方針を共有する体制がある。	利用者の重度化や看取りの要望などに備え、マニュアルの整備や、「重度化した場合の対応にかかる指針」、「急変時対応」を定め、契約時に同意書を受け取っている。重度化が進み、本人や家族の希望があれば、医師や看護師、職員を交えて話し合いを持ち、同意を得たのち看取り介護を実施する体制ができている。同一法人の協力医、訪問看護師が24時間体制で連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、それに沿って対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、利用者様とともに避難訓練を行っている。又、併設している同法人施設より協力を得られる体制となっている。	今年度は、11月に隣接する介護老人保健施設の職員や毎週訪れる移動パン屋さんの協力を得て初期消火、通報、避難の防火訓練を実施している。もう一回は、2020年2月に夜間を想定した訓練を予定している。事業所が土砂災害想定区域に指定されていることや職員体制などを踏まえ、隣接の施設とは協力体制を築いている。更に毎日、「消防自主点検票」を使い、防火設備関係の点検をしている。備蓄や備品は職員分を含め3日分、熱源を含め用意している。区の福祉施設を対象とした防災研修会に職員が参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご本人様の人格を尊重し、プライドを傷つけないように意識して言葉かけ等を行っている。又個人記録には氏名の明記などしない様に職員全員が周知し、その人らしさを大切にしている。	利用者の尊厳を重視し、利用者と話しをするときは敬語を使うことを基本としている。利用者の呼び名は苗字で呼んでいる。訪問時、食事介助をしている職員が、一口ごとに食事の内容を説明しながら丁寧な対応をしていた。また利用者に配膳などの用事を頼む言葉掛けも丁寧にしていった。職員は、個人情報の保護に努め、個人ファイルは鍵付き書庫で管理をしている。日々の記録を記載するカードックスは、内容が見えないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が積極的に関わる事で、ご本人様の気持ちを察し、促すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクをする際に、何をしたいか伺ったうえでやっている。迷っている方には幾つかの案をご提供し、選択して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容と連携を図り、ご本人様の望む身だしなみやおしゃれに添えるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	身体機能を維持するためにも、食事の準備や後片付け等、積極的に行って頂いている。又、月一回のお料理会の開催や外食、出前等を通し、食事を楽しんで頂いている。	食事は3食とも出来立ての副食を隣の介護老人保健施設から運んでいる。各ユニットのキッチンでは、ご飯を炊き、汁物を調理している。訪問時、利用者が配膳やお茶汲みなど昼食の準備を手伝っていた。利用者の残存能力の保持や食の楽しみの提供から、利用者が調理に参加する「おりょうり会」をレクリエーションに取り入れ、作る楽しさも感じてもらっている。今まで調理経験のない男性利用者も積極的に手伝い、楽しんでいる。季節の行事食や回転ずし、ファミリーレストランなども利用者の楽しみになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や食べ方を記録し、本人に合わせ食べ易いように食事形態を工夫した物を提供している。又必要に応じて医師、看護師に相談し指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに促し、見守りの介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレにて排泄できる様誘導のタイミングを考えている。法人の改善事例研修で入居者様の排泄パターンや行動を明確にし、リハパンから布パンツに変更出来た方も居る。	リビングから一望できるように片側にトイレを3か所配置し、見やすい表示をしている。トイレ内は清掃が行き届いている。利用者が自立して排泄ができることを支援するため、日中のほとんどをベッドで過ごす2名の方を除いて、その他の方はトイレで排泄している。その中で、布のパンツを使用してほぼ自立で排泄している方が2階5名、1階3名いる。そのほかの方は、リハビリパンツを使用し定時誘導している。歩行が不安定な方1名が、夜間ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用し、職員間での情報を共有している。又、医師、看護師と相談し、お客様が不快にならぬよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴予定は決めさせて頂いているが、状況によっては変更している。又、無理強いすることはしない。	週3回の入浴を目指して、脱衣場に入浴チェック表を貼り、できるだけ3回入ってもらうように支援している。利用者のその日の気分や体調で、シャワー浴や足浴に切り替えることもある。浴槽をまたげない通常はシャワー浴の方を職員が2人介助で浴槽に浸かってもらう事もある。湯船の湯はかけ流しで清潔に配慮している。柚子湯や菖蒲湯で季節感や入浴の楽しみを味わっている。冬場のヒートショックに備え、エアコン、脱衣場の床暖房を備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援して いる	体調やその日の状態に応じて、 日中臥床時間を設けたり、 外気浴をして夜間の安眠を支援 している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている	職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 せるように、一人ひとりの生活歴や 力を活かした役割、嗜好品、楽しみ ごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みや得意な事を 活かし、ご本人様の希望に添え る様、支援している。買い物、 散歩、行事参加を楽しみにして いる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しなが ら出かけられるように支援している	外気浴や行事を通し、外出し ている。	事業所の周囲は幹線道路と勾配が急な坂のため日 常の散歩はしにくいですが、できるだけ外出の機会を 作り、季節折々にアジサイ見学や紅葉狩りに出か けたり、近くの飲食店にランチやお茶を飲みに出 かけている。地域行事の花見や、近くの小学校の 運動会などはほぼ全員の方が参加して、地域の方 と交流している。また地域清掃などにも利用者が 地域の一員として参加をしている。天気の良い日 はリビング続きのテラスや、玄関前の広いポーチ で外気浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひとりの 希望や力に応じて、お金を所持し たり使えるように支援している	買い物や移動販売などでご本 人様が希望した時は、購入でき るよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人情報に配慮して電話を取り次いだり、手紙や年賀状など、大切な人との繋がりが途切れない様に支援している。又、利用者様の携帯は、常にご自身が使用できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに協力して作った季節の壁飾りを展示したり、テーブルに花を飾ったりして、居心地の良い空間を演出している。	リビングから居室につながる廊下の床や壁、居室の扉の色合いを揃え、壁の間接照明も相まって落ち着いた雰囲気を醸し出している。リビングの壁には、利用者が職員とともに制作した縦木をかたどったクリスマスのタペストリーなどを飾り、季節感を演出している。入り口前の廊下の壁には、直近の行事の写真を大きく引き伸ばして掲示し、訪れる家族に利用者の様子などタイムリーな話題を提供している。床暖房が施され、温湿度の管理が行き届いた明るいリビングは、大きな窓越しに周囲の緑が見渡せる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様の活動に合わせ、座席配置の工夫をしている。パズルや塗り絵、読書など一人でも気の合った方でも過ごせる環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や物品、配置などは入居時にご家族様もしくはご本人様にお任せしている。	エアコン、照明器具、クローゼット、防災カーテンが備え付けられた居室に、自宅から使い慣れた家具や、時計やテレビなどの生活用品を持ち込んでいる。利用者は家族の写真やぬいぐるみ、卓上ランプなどを飾り思い思いの部屋にしている。居室で家族と衣類の整理をしたり、モップを使い教室の掃除をする方もいる。	

55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>個々の基本動作を把握し、能力に応じ生活を送れるよう、共有部分に手すりや洗面所近くに椅子を置いている。又、トイレなどを明記し、安心して生活できるような環境を作っている。</p>		
----	--	---	--	--	--

事業所名	プラチナ・ヴィラ青葉台
ユニット名	1 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に添った年間目標を毎年立てている。より良い施設運営を職員同士で目指している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域へのイベント等に参加している。年間予定のもと実施、継続している。また新しい窓口も増えつつある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への行事への参加や、近隣のお店を利用する事で、人々と接し理解を得るよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域住民による率直な評価を元に研修、改善への取組みとして活かす働きかけを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区や市の研修に参加、運営推進委員会で事業所の様子を伝え、助言を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束を行わないことを理解している。しかし事業所の前の道路は交通量が多く危険なため、利用者の状況に合わせ、必要に応じてユニットごとにドア施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルは、常に閲覧できる所に掲げている。研修に参加し、情報の共有と意識改善する機会を作り、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを踏まえて権利擁護の学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用契約書、重要事項説明書の内容説明を行い、当事業所への希望を伺い、対応可能な内容の確認を行っている。管理者がご家族様に説明しご解の下、契約書を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をご家族様の目の付きやすい所に設置。面会や行事など来訪時に本人の様子を伝えている。ケアプランは、本人やご家族様の意見を聞き、反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は面接やミーティングにて、職員の意見を聞く努力に努めている。内容は、定期的開催する定例会にて法人に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標管理シートで、各自目標を設定し、評価している。面接を行い、目標の方向性や達成水準を確認し向上心を育成している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップの機会を得られるよう、内部、外部の研修への参加を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修や内外の研修に参加する事で、他グループホーム職員の交流を図り、会議などで共有しサービスの向上に努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時などに、ホームへの希望と共に、今までの生活歴や生活環境を伺い、今後ホームで安心して生活して頂けるよう、取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との電話、又は面接時の会話にて悩んでいる事を伺いホーム入居に関しての心配や不安を減らす努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人やご家族様に今後の希望を伺い、必要な支援が受けられる様、提携機関、協力機関と連絡を取っている。必要に応じ、今まで利用していた機関からの情報も得ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、おやつ作り、洗濯物畳み、居室掃除等、入居者様個々の状況に応じ見守りながら、出来る事は一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や体調、要望等を電話や面会時にこまめに伝えるようにし、本人の生活がより良いものになるよう、家族、職員で話し合う機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のほか、親戚、友人知人の来訪を歓迎し、楽しい時間を過ごせるよう支援している。又、電話や手紙、贈り物の取り次ぎも行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう時々席替えをしたり、職員が会話に入ったり全員で楽しめるレクリエーションを行ったりして、新しい関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に移られた後も、面会に行ったり、家族からの相談にも応じている。契約終了後も以前と変わらない様な支援が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、利用者の意向や希望を聞き、情報は申し送りや記録で共有している。またケアプランに反映している。把握が困難な時は表情や行動から汲み取る事を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活歴や生活習慣を伺い、入居後もこれまでの生活が維持できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や体調、言動の変化などを記録に残し、申し送る事で全職員が現状を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族さまの意向や医師の所見も取り入れて介護計画を作成する。通常は三か月ごとに、急変時はその都度見直すために話し合いを設けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や体調等の現状を介護記録に記入。職員間で情報共有し日常介護に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて医師、看護師、薬剤師、在宅医療マッサージ、他施設の相談員、福祉用具店などの協力を得て、その時に必要としているものを提供する努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の清掃活動へ参加し、又ボランティアや移動販売を受け入れ楽しい毎日を送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診を受けているが、家族の付き添いによる他受診も可能である。歯科は協力病院への受診か往診を、ご本人様・ご家族様の希望で選択している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師へ心身の状態や医師の指示、ご本人様、ご家族様の希望を報告し適切なアドバイスを受け、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーや受診、往診の記録で情報を伝え安心して生活できるように支援している。又面会、ムンテラ時に同席し退院後の受け入れ態勢を整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応にかかる方針を定め同意書を得ている。又、協力医療機関よりの医師、看護師、ご家族様と話し合いを重ね、今後の方針を共有する体制がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、それに沿って対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、利用者様とともに避難訓練を行っている。又、併設している同法人施設より協力を得られる体制となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご本人様の人格を尊重し、プライドを傷つけないように意識して言葉かけ等を行っている。又個人記録には氏名の明記などしない様に職員全員が周知し、その人らしさを大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な時や迷っているときは傾聴し自己決定が出来るよう、働きかけている。個々に、話し合いをする時間を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	レクをする際に、何をしたいか伺ったうえでやっている。迷っている方には幾つかの案をご提供し、選択して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容と連携を図り、ご本人様の望む身だしなみやおしゃれに添えるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の個々の好みや得意な事を考え、入居者様と職員が会話を交え楽しく準備や片付けが出来る様に支援している。料理会の開催や外食、出前等でも食事を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や食べ方を記録し、本人に合わせ食べ易いように食事形態を工夫した物を提供している。又必要に応じて医師、看護師に相談し指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、個人の能力に対応した支援を行っている。又必要に応じ、歯科衛生士よりアドバイスを貰っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレにて排泄できる様誘導のタイミングを考えている。法人の改善事例研修で入居者様の排泄パターンや行動を明確にし、リハパンから布パンツに変更出来た方も居る。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態やパターンを把握し、水分量や内服薬の調整を行っている。散歩、体操を行い、便秘改善に努めている。必要に応じ医師や看護師よりアドバイスを得ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	無理強いせず、個々の希望やタイミングに合わせて入浴している。また、季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯なども行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその日の状態に応じて、日中臥床時間を設けたり、外気浴をして夜間の安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の情報にて職員は薬の目的や副作用を確認している。又、薬の変更時は心身の状態を観察し、記録に残して変化に気付けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みや得意な事を活かし、ご本人様の希望に添える様、支援している。買い物、散歩、行事参加を楽しみにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外気浴をしたり、近隣の買い物などを支援している。又、地域の行事にも積極的に参加したり、車での外出なども取り入れている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や移動販売などでご本人様が希望した時は、購入できるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人情報に配慮して電話を取り次いだり、手紙や年賀状など、大切な人との繋がりが途切れない様に支援している。又、利用者様の携帯は、常にご自身が使用できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに協力して作った季節の壁飾りを展示したり、テーブルに花を飾ったりして、居心地の良い空間を演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様の活動に合わせ、座席配置の工夫をしている。パズルや塗り絵、読書など一人でも気の合った方でも過ごせる環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人様、ご家族様と話し合い、自宅で使用していた家具を配置したり、家族の写真やぬいぐるみなどを飾ったりして居心地の良い空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の基本動作を把握し、能力に応じ生活が送れるよう、共有部分に手すりや洗面所近くに椅子を置いている。又、トイレなどを明記し、安心して生活できるような環境を作っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 GHプラチナ・ヴィラ青葉台

作成日 令和2年3月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	「身体拘束をしないケア」について、会議の場を多く設ける。	定期的に会議を主催する。	研修に参加し知識、質の向上に努める。会議の場で発言をして頂き職員間での共有化に努める。	2年
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。